

千年の森便り No.236

2023.6.27

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 福島成樹 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

6月18日（日）天候 晴れのち曇り



ひと汗かいて集合写真



初めて実をつけた広場横のシキミ



広場横のツチアケビ

梅雨の晴れ間の活動日となりました。集合場所では強い日差しを避けて日陰で談笑する姿もあり、今日は熱中症に気を付けないとね、という言葉の交わりながらの活動スタートになりました。

活動としては、ニホンジカの生息状況調査、土地をお借りしている駐車場周辺の草刈り、刈払機の操作体験等を予定どおりに実施し、途中、スズメバチに襲われそうになった事件もありましたが、全員がケガなく無事に活動を終えることができました。ご参加のみなさま、お疲れさまでした。

参加者は、秋元、伊藤、鶴沢、大原、苅米、坂本、清水、竹下、成沢、福島、村野の会員11名と、体験参加の竹内さんの合計12名でした。

次回の定例活動日は7月17日（月祝）、相対照度調査等を予定しています。体験参加も歓迎です。多くの方のご参加をお待ちしています。（福島）

〇ニホンジカ生息状況調査

豊英島のニホンジカ（以下、シカ）は、豊英湖を泳いで渡り、島と周囲の森林を行き来しています。そこで、島におけるシカの生息状況を把握することを目的に、3か月に1回の調査を行っています。

調査方法は、吊り橋を渡った島の入り口から、7コースに分かれて一斉に島内を踏査し、シカの目撃や足音、声、痕跡を記録して生息状況を把握するというもので、毎回、活動日の最初に実施しています。今回の調査時間は、10:06から10:37でした。

結果は、シカの目撃、足音、声等の確認はありませんでした。なお、調査者からの感想として、これまでに比べてオオバノトンボソウなどの植物への食害が少なく、最近あまりシカが来ていないのではないかと、という声が聞かれました。今後、センサーカメラの情報なども合わせて、シカの生息状況が変化しているのかどうか確認できればと思います。調査にご参加いただいたみなさま、お疲れさまでした。（福島）



7コースに分かれて
島内を踏査

〇シカ調査の感想

シカの調査では1から7まであるコースのうち、6コース（ホテイ岬の山回りコース）の調査を担当しました。調査中は、シカを見かけることもなく、食害の形跡や糞も見当たりませんでした。鹿よけネットの絶大な効果によるものなのか、それとも島まで渡って来なくても美味しい物が充分にあるということなのか、詳しくは、セン

サーカメラの成果を要確認ですが、昨年と比べて島内のシカの食害が減少している印象を受けました。

また、先日の大雨と大風によるものと思われる大きな枯れ枝が、島内の通路を塞ぐように各所に落ちていました。もし、活動中に直撃するようなことがあったら一大事です。ナラ枯れの被害木の整理を急ピッチで進めていきたいです。来月からは新しい機械を導入するとの話もありますので、戦力アップを楽しみにしながら、安全第一で作業を進めていきたいと思います。(竹下)

〇刈り払い作業（駐車場、ヒメコマツ植栽地）

シカの食害に悩む当会ですが、駐車場及び保護ネットで囲まれた内部は草刈り作業が必要です。駐車場は農家さんから草刈りを条件に無償でお借りしています。農家さんが分担して行っている農道や駐車場スペースの刈り払い作業を代行する形になるので、安易な作業はできません。

まず、進入路の市道の路肩や農道などの直線部分は苅米さん持参の自走式刈り払い機が、その威力を発揮しました。斜面でも刈り払い可能で、Uターン時に向きを変える必要がないなど、業務用機器の実力を目の当たりにしました。駐車場部分は、刈り払い機の講習会を兼ねて数人で実施しました。講師以外は初心者ばかりでしたので、虎刈りになったような気もしますが、午前中になんとか終わりました。

安全講習会的活動はこれまであまり行ってきませんでしたが、年1回は行う必要性も改めて実感しました。同じテーマであっても改めて確認し共通認識とすることが安全確保の第1歩だと思います。

ヒメコマツ植栽地は保護ネットで囲まれているので、様々な植物が旺盛に生育していました。ヒメコマツは植栽して10年以上経過しているため、ヤマユリなどに配慮しつつ灌木類や背丈の高いイネ科などの刈り払いを行って林内はサッパリしました。清水さんは初めての刈り払い作業とは思えない手際よさでした。

ネットの外には天然のアカマツ幼木が枯れており気になりました。マツノザイセンチュウ被害でなく単に日陰となったためならいいのですが。

これまで草刈りは、作業に習熟した坂本会員に頼り過ぎていたので、刈り払い機を並べて写真を撮るようなこともありませんでした。これからはみんなで分担して作業を進めたいと思います。(伊藤)



自走式草刈り機

駐車場刈り払い後

柵の近くは手刈りで

刈り払い機を並べて

〇刈り払い機操作講習

市原で参加している里山整備活動や相続で引き継いだ土地の除草作業に役立つそうだと思います、思い切って自前の刈り払い機を購入したのは昨年10月のことです。その後、諸般の事情により買ったはいいけど稼働しないまま8ヶ月が経過してしまいました。一応、刈り払い機取扱作業者の安全衛生教育を受講していたものの、刈り払い機の実機操作はしていないので不安だったところ、6月の活動日に操作体験講習の場を設けてくださり助かりました。

講師は、この道のプロである竹下さんが務めてくれました。受講生はなんと私だけ！こんな贅沢な講習会ってあるのだろうか。

まずは三点支持式の肩掛けバンドの装着から始めました。事前に自分に合った形にアジャストしてこなかったので竹下講師にはご迷惑をかけてしまいました。続いて燃料の補給。さらにはプライミングポンプを数回押し燃料をエンジンに送ります。その後、チョークレバーを閉にして、コントロールレバーを真ん中あたりにセットし、スターターハンドルを強く引きます。2、3回で無事にエンジンが始動しホッとしました。始動後すぐに

チョークを開にして、しばらくアイドリングしてからいざ作業開始！ここまでの操作内容を体に覚えこませたいところですが、まだまだの感はぬぐえません。

実際の除草作業は思っていたよりも難しく感じました。草むらに隠れている倒木や石などに接触するのが嫌でどうしても高めに刈り払うことになり、きれいに刈り込むことができませんでした。また、障害物に対する自身の位置取りが悪くて刃が鹿よけネットに接触してしまい、ネットを盛大に切ってしまいました。位置取りについては苅米さんに教えてもらい、その後の作業はスムーズにできました。また、ネットの修復は鶴沢さんの職人芸に救われました。

作業の時間としては午前午後合わせて1時間半程度だったでしょうか。緊張していたので汗だく汗だくの1時間半でした。今後につなげる反省点としては、耳栓のセットとゴーグルの装着です。ゴーグルは持参していたものが汗と蒸れで見えなくなってしまい途中から外してしまいました。が、作業中の飛散物のことを考えると装着はマストのように思えます。これについては蒸れに強いネット式のものを探してみたいと思います。

また、今回蜂の巣（コガタスズメバチ）が作業エリア内で確認されました。竹下講師から蜂撃退スプレーを貸していただきましたが、これは有効だと感じました。それに加えて自分でも持っている防虫ネットを被れば良かったかなと感じています。

夏場の刈払い機による除草作業の大変さを大いに体感できた有意義な一日でした。マンツーマンで懇切丁寧に教えていただいた竹下さんをはじめ皆様には大変お世話になりました。（清水）



マンツーマンで操作体験



みんなで安全作業の確認



電動刈り払い機のデモ



刈り払い機デビュー

○体験参加の感想

前回、豊英島ハイキングに参加させていただき、普段の活動に興味湧き体験参加させていただきました。

最初の二ホンジカ調査では鹿にお目にかかれず、植物にとっては良いのですが、個人的には観てみたかったです。島内で驚いた事は、とにかく実生の可愛い小さな木や新芽が多い事です。ツガ、モミ、カエデ、ヒイラギ等沢山の可愛い実生の木はいくら観ていても飽きません。また、観た事がないキノコも沢山ありました。手焼きせんべいの様な形?!の物も。

会の方が植物観察の為に急な崖をロープで降りたり、暑い中で保護柵内の下刈りをするのも凄いと思いました。休憩時間や島内を観察している間も、皆様の豊富な知識や経験談を聴く事が出来、興味深く勉強になりました。

豊英島は水辺の気持ち良い風をゆったりと感じたり、断崖絶壁のスリルある冒険探検気分を味わったり、トビの巣は今年何処にできるかな?この植物はいつ実がなるかな?等、一年を通して観察したいワクワクが詰まっています。とても楽しい時間を有難う御座いました。（体験参加の竹内さん）



崖を降りて植物観察



手焼きせんべいのようなきのこ

〇スズメバチに遭遇

シカの調査後の草刈り作業中の出来事です。私は、刈払機の人が刈りにくいブロック塀周辺を「手鎌」で草刈りしていました。途中、2~3匹の羽虫が私に向かって飛んでくるので、鎌で払いながら距離を取って確認すると蜂でした。

マズイと思い、さらに10mほど距離をとり振り返ると、先程まで私がいた場所では20匹程の蜂が黒いモヤ状に飛び回っていました。どうやら巣を壊してしまったみたいで、危機一髪でした.....

体長2cmほどだったので、おそらくコガタスズメバチだと思います。無事、生還できて何よりでした(^^;) この時期の草刈り作業は暑さの他にもスズメバチや毒蛇など危険生物への注意も必要ですね。(成沢)

〇マムシとの遭遇

シカ調査で3コースを担当して、禁断岬へ向かう途中の狭い尾根に差し掛かった時、2コースを担当した村野さんは既に岬方面の調査を終えて折り返して来ていました。私が進もうとする先にマムシがいると言うのですが、どこにいるが分かりませんでした。マムシの保護色効果が絶大なのか、それ以上に私の視力が衰えたのか心配になります。村野さんが枯れ枝の即席差し棒で居場所を示してくれるとヘビが少し動いたのでやっと分かりました。



周囲の落ち葉に同化しているマムシ

ダム貯水が始まった時、谷底にいたマムシは水位の上昇に追われて上に逃げ、一部が島に取り残されたと思います。それ以来隔離状態で50年以上経過しているので、初代から世代交代を繰り返し、目の前のマムシはその子孫になると思います。新規の漂着者が無く島内だけで世代を重ねるとガラパゴス化したマムシになるのでしょうか？一万年後の変化を楽しみにしてバイバイしました。(坂本)

〇タケノコの立ち腐れ病？

先月の島内観察会では、ホテイチクのタケノコが発生していて防護ネットの内外ともシカの食害が無かったので、今月はどうなっているか見に行きました。

タケノコの一部は若竹に生長していましたが、大部分は先月見た時から生長しておらず、私の腰から膝の高さのままのものが目につきました。先端を握って引っ張ると大した力も入れないのに途中で干切れてスポンと抜けるのです。皮が付いたままなので外目には異状無く見えますが、中は枯れて腐っていました。恐らくカビの類が原因の病気だと思います。似た現象はマダケや孟宗竹でもまれに見られるのですが、これほどひどく発生しているのを見たのは初めてです。



ホテイチクのタケノコの立ち腐れ

記録すべき事実は、シカの食害が無かった(少なかった)事と立ち腐れが多かった事です。(坂本)

〇6月の植物の様子

昨年活動日、ケイワタバコは蕾でした。今年は季節が少し早めに廻っているような状況です。ケイワタバコの花も早めに咲いているのではないかと期待を胸に参加しました。自生している場所は「禁断の岬」の崖の中腹のため数人の会員しか見るチャンスがありません。今回、体験参加の竹内さんの協力を得てロープを携えて自生地に向かいました。崖の上から10分ほどかけてロープをセットし、中腹のテラスに下りました。テラスには、大小合わせて10数株あったように思います。7、8株に蕾が付き5株ほどが咲き始めていました。花を無事写真に収めることができ感激しました。竹内さんは安全のため崖の上で待機し、観察を見守ってくださいました。

福島さんは草刈り作業の途中から観察の様子を確認に来て、ロープの回収をしてくださいました。

島中央部に咲くイワガラミはナラ枯れから逃れたコナラに絡んでいます。この木が今後も無事であることを願いつつ、地上10m以上の高所で咲いている花にカメラを向けました。距離があるので撮影には三脚が欲しいところですが、ズームアップして何とか撮影できました。



オカトラノオ

この時期のホオノキ、ウラジロガシ、シロダモの新葉は赤っぽい色をしています。葉の赤い色は、アントシアニンと紫外線との関係で起きる現象のようです。ヒガンマムシグサの1株の実赤く熟し、半分以上がすでに無くなっていました。オオバノトンボソウは蕾、イチヤクソウは花が咲き終わって間もない様子です。虫の被害にでもあったのか、大きなモミボックリが地面に落ちていました。めったにないことです。モミボックリはずっしりとしていて、冷たい感触が手に伝わりました。今は梅雨時、林床の苔類が生き生きと見えます。スギゴケの仲間でしょうか、緑色のマットを敷いたようにきれいでした。胞子体も数本確認できました。



苔を撮影する秋元さん

コナラ伐採地は緑いっぱいです。昨年、種をつけたハンショウツルは巻き付いた木の上の方まで伸びています。株数も増えていましたが花の咲いた形跡はありませんでした。低木草区画のヤマユリは、1.5m程の株となり蕾をつけていました。膝の高さ程度に植物が一面にありましたがパイオニア種の幼木（アカメガシワ、ヌルデ、イヌザンショウ等）が目立ちました。コウヤボウキ類も一面に生え草本類はあまり確認できませんでした。ヤマツツジは1mを超えるほどに成長していました。確認出来た花・果実はムラサキシキブとオカトラノオ1株、コバノガマズミの若い果実は赤褐色で緑帯びた色を含んで枝先に沢山ついていました。クロモジの果実は光沢のある綺麗な緑色をしていました。（秋元）



スギゴケの仲間



ロープを使って崖下に降りる
秋元さん



ケイワタバコ



ケイワタバコの花



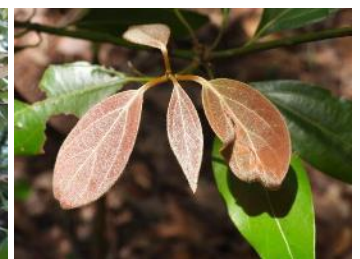
イワガラミ



ホオノキの新葉



ウラジロガシの新葉



シロダモの新葉



ヒガンマムシグサの実



オオバノトンボソウ



イチヤクソウ



モミボックリ

○センサーカメラの動物たち

前回の記録に比べ頻繁に記録されたのはハクビシンとアナグマです。

そのほかの動物の記録回数に、大きな変動はありません。

設置期間：3月19日から5月21日まで

日数は確認した日数で、同じ日に複数回記録されても1日としています。（秋元）

CAM1：吊橋着岸点付近	ハクビシン	24日	夜間	アナグマ	14日	昼間・夜間
	タヌキ	7日	夜間	アライグマ	4日	夜間
	テン	4日	昼間・夜間	ニホンジカ	1日	夜間
	キジバト	1日	昼間	不明	3日	夜間
CAM2：ホテイ岬分岐点	ニホンジカ	3日	夜間	ハクビシン	3日	夜間
	テン	3日	昼間・夜間	キョン	2日	夜間
CAM3：ホテイ岬先端付近	カケス	1日	昼間	エナガ	1日	昼
	ヒヨドリ	2日	昼間	不明	1日	昼間



アナグマ



テン



ニホンジカ



キョン



カケス



エナガ



ヒヨドリ

○きのこもいろいろ

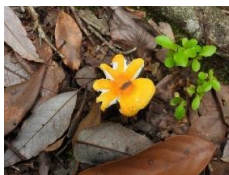
数は少ないですが、イグチの仲間、テングタケの仲間などが出ていました。8月は夏のきのこ観察会、10月は秋のきのこ観察会を予定していますのでお楽しみに！（福島）



ニガイグチの仲間



？



ウコンハツ



ドクツルタケ



ヒトヨタケの仲間



フウセンタケの仲間

お知らせ

○次回の定例活動は7月17日（月祝）です。

光環境（相対照度）調査、コナラ伐採地刈り払い（必要に応じて）、ヒメコマツ下刈り（6月に実施したのでこちらにも必要に応じて）、危険木伐採（参加メンバーによって）を予定しています。集合場所、時間は通常どおり9時30分に清和自然休養村管理センターです。

暑さが厳しい時期になりますので、体調に合わせてご参加ください。熱中症対策、ヤマビル、ダニ対策、ヘルメット着用を忘れずに。